平成 29 年度　実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ
学生振り返り会兼 PROG 解説会　実施報告書

(1) 主旨・目的

実践力養成型（寺子屋式）インターンシップでは、学生は「期間限定の社員」として、企業担当者とチームを組み、「成果を出す」ことに拘ってプロジェクトに臨んだ。通常の座学とは異なるこれらの経験から学生が何の力を得たのか、本インターンシップへの参加は学生にとってどういう機会になったのかを、振り返りを行う中で学生が自覚することを目的に実施した。

なお、インターンシップ参加前後に受験した PROG テストの結果を元に、インターン参加前後でどのような思考の変化、行動の変化があったのか、また、どのような経験や創意工夫が成果にプラス（もしくはマイナス）の影響を与えたのかについて振り返りを行うと共に、チームメンバーからのレビューを貰う中で、上記の自覚を得ることを狙いとした。

(2) 日時

平成 30 年 2 月 18 日（日）13：00～16：00

※13：00～14：00　PROG テストの結果解説会　　※14：00～16：00　振り返り会

(3) 場所

徳島大学地域創生・国際交流会館 5 階　フューチャーセンター『A.BA』

(4) PROG 解説会　講師

株式会社リアセック　キャリアカウンセラー　横内　博之　氏

(5) 参加学生数

PROG 解説会：33 名　　振り返り会：27 名

(6) プログラムの内容

時間	項　目	内　容
13：00～14：00 （60 分）	PROG 解説会	講師：(株)リアセック　キャリアカウンセラー　横内博之氏
14：05～14：10 （5 分）	学生振り返り会 主旨説明	趣旨説明
14：10～14：20 （10 分）	振り返り①	・インターンシップ期間中を振り返り、モチベーショングラフを作成する
14：20～15：00 （40 分）	振り返り②	・リテラシーとコンピテンシーの変化分析を行う ※どういう経験から？なぜそうなったのか？を振り返る ・テーブルメンバーで共有
15：00～15：30 （30 分）	振り返り③	・他己分析を行う ※他者から自分に対するレビューをもらう。 ・テーブルメンバーで共有
15：30～15：50 （20 分）	感想	・振り返り会/インターンシップに参加しての感想を発表する（全体共有）
15：50～16：00 （10 分）	総括	・総括

1. PROG 解説会

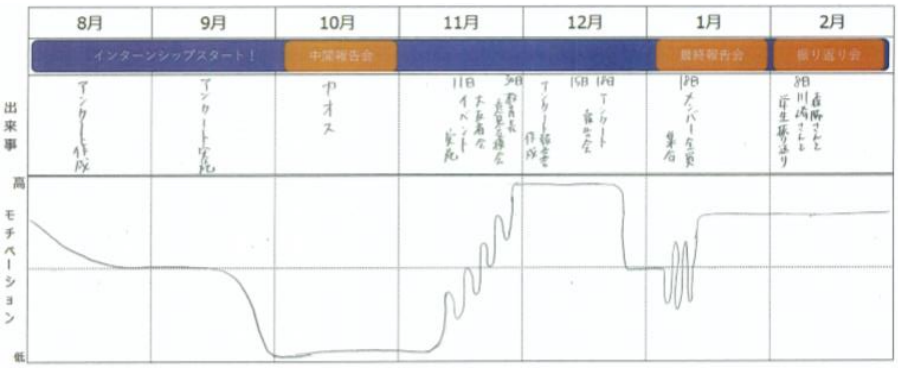
実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ参加学生には、インターンシップ参加前の 6 月とインターンシップ参加後の 1 月の計 2 回、社会人基礎力（ジェネリックスキル）を判定する自己分析テスト「PROG」（株式会社リアセック・河合塾共同開発）の受験を課した。インターンシップ参加前と参加後において、それぞれのスキル（リテラシー・コンピテンシー）にどのような変化があったのか、また変化のもととなった体験を振り返り、自身の強みの整理や自己 PR の作成などを、ペアワークを通じて実施した。なお、PROG 解説会には、実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ参加学生以外の一般受験者も参加した。

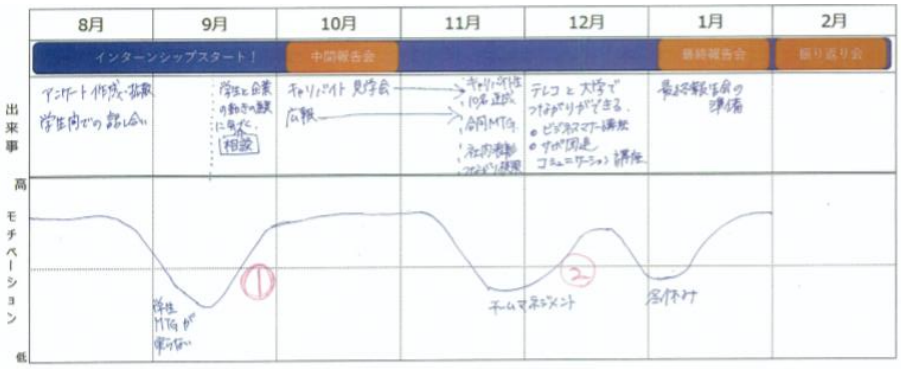
PROG 解説会の様子

2. 振り返り会

①モチベーショングラフの作成

インターンシップ活動期間中の出来事を振り返り、その時のモチベーションの昇降を記載したモチベーショングラフを作成した。





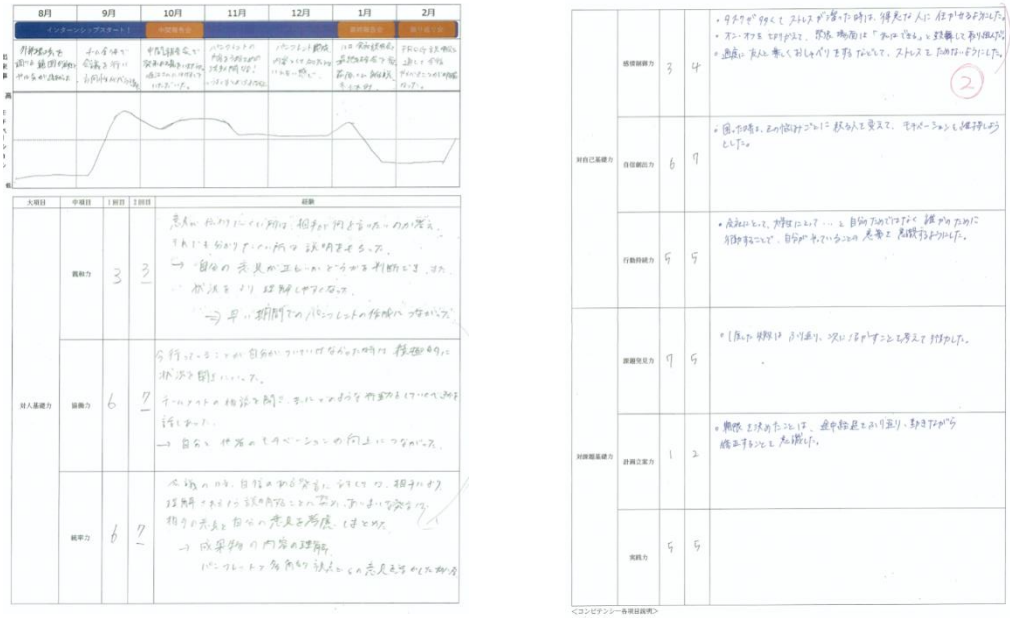
学生が作成したモチベーショングラフ（一例）

②リテラシー・コンピテンシーの変化分析

PROG 解説会では前後の結果を比較して一番伸びた項目（もしくは強みとなる項目）に絞って検証を行ったため、その他の各スキル項目について、スキルが伸びた項目はもちろん、下がった項目についても、どのような経験からそのような変化が起こったのかを検証するため、振り返りを行った。

また、それぞれの経験をグループ内（他プロジェクトメンバー含む）で共有することにより、類似の出来事・経験に対し他者がどのような行動や意識変化があったのか、物事のとらえ方等について、多角的な視点を得られることを狙いとして実施した。

この際、視点として重視したポイントは、『成果を出すために』どのような経験・行動をしたのか、という点である。リテラシー・コンピテンシーの変化分析を通して、どのような力が身についたのか、また、どのような経験・機会がそのような変化をもたらしたのかをそれぞれが振り返り、認識することができた。



学生が記入したワークシート

以下、学生のワークシートより一部抜粋する。なお、各力の定義については末尾に記す。

＜伸びた力：どのような経験からその力が伸びたのか＞

スキル	経験
協働力	・自分の考えやできることが他の人もできることだと思っていた。自分の思考の仕方は自分だけなんだと気づき、それによって相手がどのように考え、その相手に対する接し方はどんなものがいいのかについて考えるようになった。 ・メンバーが持っている情報に偏りがあるとチームの動きが鈍くなりロスやミスが多くなった。役割分担を明確に行うことで、プロジェクトを加速的に進めることができた。 ・学生ミーティングをどれだけ行っても結果が実らない（成果がでない）時期が続いた。その際、報告/連絡/相談を意識して情報共有をマメに行い、お互いの認識にズレがないように確認をとるようにすることでチームの意欲を高めることができ、成果につながった。 ・自分が得た情報とメンバーが得ている情報のすり合わせ、ズレをなくすことをミーティングの中で頻繁に行った。メンバーに「何故？」とよく聞くことを意識した。これにより、メンバー内での認識のズレはあまり起こらず、相互理解につな

	がった。 ・チーム内で時期によってインターンにかけれる時間・労力がバラバラだったので、役割分担をするときに各々の状況を考慮した上で役割を決めていた。期限に間に合わなそうな時は早めに共有し、分担の見直しやサポートを行い、期限までにできるように行動した。
親和力	・多種多様な意見が飛び交う中で、まずはどの意見でも受け入れ、また立場の違いも考慮しながら意見をまとめることに注力した。
感情制御力	・求められる「成果物」がちょこちょこ変わった。受入企業さんが言うことも変わった。その時に、人の言うことだけでなく、何をすることが企業さんにとっての「成果」につながるのかを第 1 に考えて、成果に繋がることをしよう、という意識が芽生え、あまりモチベーションのブレがなくなった。
行動持続力	・テスト期間中にインターンシップに取り組んだ時、自分の状況を見て、融通が利くところに働きかけて調整してもらうことで、すべてを責任持ってやりきることができた。
計画立案力	・プロジェクトを実行していく上で、スケジュール管理や目標の設定、その目標への課程を設定する際に失敗を経験した。その後、定めた目標をどのようにクリアしていくか、様々な視点（学生側だけでなく企業の状況状態を把握するなど）から考えることでうまくいった。

＜下がった力：どのような経験からその力が下がったのか＞

スキル	経験
感情制御力	・活動において、感情を隠して行動する場面が少なかった。やる気が落ちていると分かっていても改善を行うことがなかった。結果、インターン活動の作業スピードに影響が出てしまい、成果につながらない行動となった。
実践力	・考えることを 1 人の圧倒的な統率力をもつメンバーに任せっきりにしてしまい、何事も受け身かつ事務的な作業に留まってしまったこと。共に考えるのではなく、手足として行動に尽力していた。 ・到達目標を掲げてはいたものの、アンケート結果で想定とは大きく異なる結果が出て、しかもそのような結果が出るとは全く予想していなかったため、どうしていいか分からず、そこから物事を進められなかった。 ・自ら行動することが少なく、基本的に受入担当の方に頼っていた。先を見据えた上での行動ができておらず、ギリギリになることが多かった。
計画立案力	・チームリーダーがすべてのチームの舵取りを行ってくれていたため、今回は何も口出しできないと思っていた。しかし、期限内に成果を出すためには、どうすれば良いのかなどを自分でも考えリーダーに進言していればと思う。 ・1 回目を受験しときは、（テスト問題には様々な状況が挙げられており、その時にどういう行動をとるか、を回答する形式だったのだが、）そういう場面にあたったことがなく、こっちの方がいいんだろうなと思って（知識で）回答していた。結果としてもある程度いい結果が帰ってきた。2 回目に受験した PROG では、インターン中やったこと（行動）をもとに回答したのだが、結果はコンピテンシーがボロボロだった。今後、実際に行動していく中で自分に必要なことが分かったのは良かった。

③他己分析（メンバーからのレビュー）

事前に自分以外のメンバーに対するレビューをまとめておき、フィードバックと共有を行った。

自分がチームの中でどういう役割を果たしていたのか、自分が周りにどのような影響を与えたのか、他者からのレビューを受けることで自己分析だけでは分からない点、自分でも気付いていない自分に気づき、自己を正しく認識する機会となった。なお、この際も、「PJ の達成」や「成果を出す」という点に対してどうであったのか、という視点で見直すよう促した。

＜メンバーからのレビュー一部抜粋＞

●物事を批判する思考力（クリティカルシンキング）

・うまくいっている時にこそ、このままで本当に大丈夫かどうかを反省しなおすことの大切さをその人から学んだ。→話し合いの時には、みんなと違う視点で物事が見れていた。話し合いが軌道に乗ってきたときに、本当にこのままで大丈夫かどうかを多角的に考え直していた。

・出た案をよりよくするために足りていないところや見直すべき点がないかを考え指摘してくれた。また、その根拠も調べて分かりやすく示してくれたことで、提案する精度の質を高めることができた。

●気持ちや考えを表現する力

・今回のインターンシップでは、学生と企業がそれぞれ思っていることを伝えなければプロジェクトを達成できないことがわかった。思っていても口に出しにくい、ということでも、企業側にはっきりと伝えてくれて、事態が好転した。

●自分で感じ、考える力

・人の話を全部受け止めてしまう部分があるので、たとえ指示を出されたとしてもその仕事が本当に今、必要なのかを考えてみてください。もしかすると指示された方法よりも効率のいい方法が見つかるかもしれません。

●他者と協力して物事を進める力

・「成果」にこだわることで、自分のできること、できないことに気づけた。できないことはできる人に補完して貰うことで、チーム全体の結束力や作業効率が増す。

●具体的な解決方法を生み出す力

・プロジェクトを進める中で不安に思ったり躓いたりした時に、周りの大人にアドバイスをもらい、それをチームに共有してくれることが、停滞する現状を打破することにつながった。

・インターンシップが忙しい中でも●●（受入先）でバイトを始めて、受益者側からの視点を共有してくれた行動力に助けられた。

振り返り会後に実施したアンケート結果によると、「他のメンバーからのフィードバックによって自分で気付かなかった部分に気付くことができた」「もやっと気付いていたことにはっきり気付かされてよかった」と言った声があがった。

グループワークの様子

3. 総括

これまでの振り返りを踏まえ、学生らがインターンシップを通して何の力を試され、どのような機会となったのか、インターンシップの総括を行った。

実践力養成型（寺子屋式）インターンシップで学生が取り組んだプロジェクトは、企業にとって「緊急性は低いが重要度は極めて高い企業の問題・課題」であり、プロジェクトの環境設定を行う際には、①参加型であること、②現実的課題に取り組むこと、③継続的にプロジェクトに関わること、④多様な考え、立場、世代の人と関わること、⑤学生の主体性による事業推進が行われること、⑥周囲の人や組織、地域の可能性を活かすこと、⑦関わる人が互いに学び合えること、⑧ただひとつの解だけではないプロジェクトであること、の８つのポイントをもとに設計を行っている。

そのようなプロジェクトを達成するにあたっては、学生たちは、主に、①自分で感じ考える力、②問題の本質を見抜く力/物事を批判する思考力（クリティカルシンキング）、③気持ちや考えを表現する力、④多様な価値観を認め尊重する力、⑤他者と協力して物事を進める力、⑥具体的な解決方法を生み出す力、⑦人・組織・地域・国・地球の環境容量を理解する力、の７つの力が試された。

学生らは、インターンシップを通して正解のない複雑な問題に取り組む中で、自然とこれらの力を伸ばし、身につけた。中には、少し体験した、というレベルのものもあるであろうが、これらの小さな体験を繰り返し積み重ねていくことで、今はおぼろげな自覚が、本当の確信に変わっていくものと考える。

補足
PROG における各項目の定義について。

1. リテラシー
リテラシーとは、知識を活用して問題を解決する力（考える力）をさす。

大項目	項目	定義
問題解決力	情報収集力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力。
	情報分析力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造をとらえて、本質を見極める力。
	課題発見力	さまざまな確度、広い視野から現象や事実をとらえ、その背後に隠れているメカニズムや要因について考察し、解決すべき課題を発見する力。
	構想力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処方法を構想する力。

2. コンピテンシー
コンピテンシーとは、人と自分にベストな状態をもたらそうとする力（行動する力）をさす。

大項目	項目	定義
対人 基礎力	親和力	多様な考えを受け入れ、相手の立場に立って考える事で信頼を引き出し人間関係を構築していく、また自分から多くの人と積極的に人間関係を築いていく力。
	協働力	周囲と情報を共有し、周りのやる気を引き出して協力して課題に取り組み、またリーダー的立場からメンバーを指導し、チームや後輩の意欲を高めていく力。
	統率力	異なる意見にも耳を傾ける一方で、自分の意見も主張しながら交渉や討議を建設的に進めていく力。
対自己 基礎力	感情制御力	ストレスのかかる場面でも自分の気持ちや感情を把握した上で状況を前向きにとらえ困難に挑戦していく力。
	自信創出力	自分の強みや弱みといった自身の特徴を理解し、自分に自信をもっていると同時に、機会を捉えて自分を向上させようとする力。
	行動持続力	自分なりのルールや決まりをつくりながら、最後まで粘り強く責任をもって物事に取り組む力。自分にとって必要だと思う事柄に継続して取り組んでいく力。
対課題 基礎力	課題発見力	さまざまな確度から適切な情報源と手段で情報を収集し、広い視野から減少や事実をとらえ、そのメカニズムや原因について考察して解決すべき課題を発見する力。
	計画立案力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処方法を構想する力。
	実践力	目標達成に向けて自ら行動し、予測した先行きに併せて全体の動きを調整しながら早めに行動を修正し、実行する力。